

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/ ナモの寺 検索
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁 10-11

第338号
平成23年12月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp

【出典】『遺教経』知足(足を知る)
汝等比丘、若し諸の苦惱を脱せんと
欲せば、当に知足を觀すべし。



盆石『月と波濤』：小島とよ子

ちよっとした
小銭が貯まると

もう少し
欲しくなる

もう少し
貯まると

もっと
欲しくなる

もっと貯まると
もっともっと

欲しくなる

貪って

足るを知らない者は
富めるといえども

心は寒い

欲を慎み

足るを知る者は
貧しいといえども
心は暖かい

足るを知る

今年も後わずか、振り返ってみますに、国内ではもちろん東日本大震災、国外では、タイの大洪水、ギリシャ財政危機といった大きな問題を抱えたままの年越となりそうです。また、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の問題も含め、これからの日本、大きな転換期に差し掛かっており、それぞれがそれぞれの立場で、関心を持ち、方向性を見つめていくことは大切のようでありませぬ。

考えてみますに、徳川幕末の折、浦賀沖にやってきたペリー率いる蒸気船に驚かされて以来、欧米諸国に負けまいと、がむしゃらに近代化を図ってきたように思えます。しかも、植民地政策まで列強に遅れまいと、「富国強兵」のスローガンの下、他国にまで侵略し

たものだから、先の大戦では手痛く打ちのめされてしまいました。

それでもなお、日本人は「臥薪嘗胆（しよたんたん）（目的を達するため苦勞を重ねること）」・「欲しがりません勝つまでは」の精神を忘れることはありませんでした。国債をどんどん発行して、国民がこつこつ貯めた預金を吸い上げ、経済世界戦争に挑み、GDP（国内総生産）においては、昨年度、世界第二位から三位に落ちましたが、経済大国といわれるまでになりました。

ところが、そのような借金をしても儲けようというバブル経済には、大きな落とし穴があつて、見事にはまってしまいました。その財政を立て直すには、新たに国債を発行して借金を積み重ねていかねばならないという、泥沼状態からなかなか抜け出せないでいる

というのが現状です。

一方、日本がこのような状況であることを尻目に、お隣の韓国が猛烈な勢いで攻勢をかけており、テレビ・スマートフォンなどはずいぶん水をあげられてしまいましたし、自動車でも相当追い上げられてきているようです。また、芸能面でも、韓流ブームは、歌にドラマに今なお盛んです。

しかし、そのような繁栄の裏には熾烈な競争社会があつて、そのストレスから芸能人や若者の自殺者が増え、ここ数年前から急激に増えています。その対策に苦慮しているようです。最新の統計（2009年）によりますと、韓国の自殺率（人口十万人当たりの自殺数）は、全世界ではリトアニアに次いで第二位、OECD（経済協力開発機構）加盟国中ではもっとも高く、31.0

人となっています。十年前に比べると、一気に倍増しています。

もつとも、日本も自殺者は、このところ毎年三万人を超え、自殺率は同年度の統計では、世界で八番目の244人ですから、韓国と同様、ストレスを抱えた人々が多いう国であることには、変わりありません。

さらに、もつひとつの統計として出生率（一人の女性が一生に産む子供の平均数）を見てみますと、日本の場合、丙午（ひのえうま）の年は別として、1970年代前半まで213人であったのがじりじり低下してきて、2010年では1.39人に、一方、韓国の場合は極端で、1970年頃に4.53人であった出生率が、2005年に世界最低水準の1.08人に落ち込み、2010年は1.23人と少し戻しましたが、この少子化の

問題は、日本も韓国も、将来への展望を考えたとき、由々（ゆ）しき問題となっております。

両国共に、世界全体から見れば経済的に恵まれた国であるといえます。しかし、自殺率・出生率という統計から見ると、とても、幸福で、希望の持てる国とはいえないようです。お金を儲けること、それが幸福につながると思っていて、少しでもより高学歴・一流企業への就職を目指し、さらには、残業・休日出勤・単身赴任も厭わず、家族との触れ合いを犠牲にしてでも、ただひたすら働くことが善いことだという思い込みは、そろそろ見直さなくてはならない時期にきているといえましよう。

経済的豊かさの指標 GDP（国内総生産）、あるいは GNP（国民総生産）において優位であっても、

いくつかある幸福の指標ランキングでは、日本は、下位でしかありません。近年、ブータン国王が提唱したのGHI（国民総幸福量）が注目されています。ブータンはインドと中国にはさまれた、世界で唯一チベット仏教を国教とする王国で、GDP（国内総生産）は低くても、国民の97%以上が、満足し幸福であると答えています。

ここにひとつの方程式があります。「幸福＝財産／欲望」です。幸福になるために、分子を大きくするのが欧米式、分母を小さくするのが仏教式といわれます。

『法句経』一〇四番

健康は最上の利益

満足は最上の財産

信頼は最上の縁者

心の安らぎこそは最上の幸せなりを、今こそ噛みしめたいものです。

◎十二支

「君は何年？」とたずねても、答えられない若者がふえてきた。「十二支」は、日本のお正月には欠かせない風物詩(?)。年まわりを、動物で表現するという風習は西洋には見られない粋な発想なのだから、もっともつと大切にしたいものである。

さてこの十二支、一般には中国の暦の伝統からきたと考えられているが、そのルーツを探っていくと仏教に行き当たる。

須弥山の南方には諸仏が現れて法楽を授けられるという州がたつた一つだけあった。それが閻浮提。こゝは四つの島に囲まれているのだが、それぞれの島には三匹の獣が住んでおり、この計十二匹の獣が交互に閻浮提にきては衆生を救ったという。その十二獣とは、

東方―獅子(虎)、兎、竜。

南方―毒蛇(蛇)、馬、羊。

西方―獼猴(猿)、鶏、犬。

北方―猪(猪)、鼠、牛。

現在の十二支の動物たちと全く同じである。これらの獣たちは、菩薩の化身とも考えられていたとか。

そして中国である。古来から天文学が発達したこの国では、木星の位置を測るために、天を十二に分け、それぞれに子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥と字を当てた。これが、十二支である。

さて、中国の天文学とインドの十二獣はやがて日本でドッキングする。つまり十二支に獣の名を当てはめていったのだ。かくして、現在我々が使っている十二支が誕生したというわけである。

この十二支をえいと読む人がいる

が間違ひ。ほんとうは「干支」。陰

陽五行の「十干」に十二支を組み合

わせて年、月、日を当てるもので、

十二支だけを指しているのではない。(『仏教のことば』ひろさちや監修)

雑記

▼虚空道研上人忌

この12月18日で、一年が経ちます。

内外、色々なことがありすぎて、あつという間の二年であったように思えます。12月4日に、法類僧・檀信徒総代の方々にご参列いただき、一周忌法要を勤めさせていただきました。

▼襖の張替

本堂・書院等の壁や襖・障子が、かなり痛んできました。取り敢えず、一周忌法要に併せて、襖と障子の張替をいたします。

◆襖替え伽羅香を焚き道研忌 沐魚

